

特集

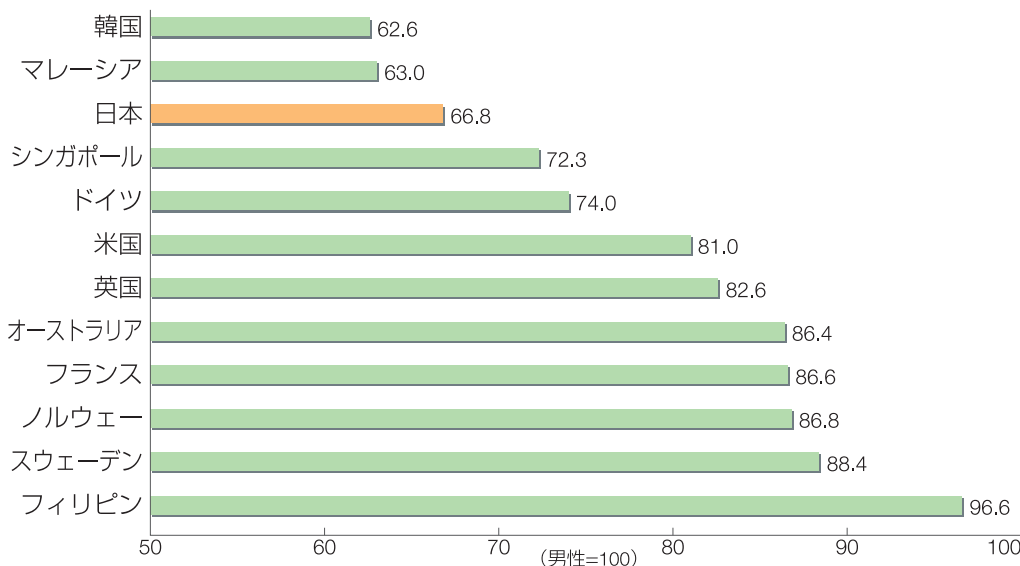
「男女平等」はどこまで進んだの？ ～日本の今と世界の現状～



女子差別撤廃条約の批准から30年。
さらに男女共同参画社会基本法の施行から10年。
日本の男女平等はどこまで進んだのでしょうか。
様々な分野にスポットをあて、
国際比較をしながらその現状を探ってみました。

ジェンダー・エンパワーメント指数		人間開発指数	
1位	スウェーデン	1位	アイスランド
2位	ノルウェー	2位	ノルウェー
3位	フィンランド	3位	カナダ
4位	デンマーク	4位	オーストラリア
5位	アイスランド	5位	アイルランド
6位	オランダ	6位	オランダ
7位	オーストラリア	7位	スウェーデン
8位	ドイツ	8位	日本
：		：	
58位	日本		
：			

資料：国連開発計画（UNDP）「Human Development Indices: A statistical update 2008」及び世界経済フォーラム「The Global Gender Gap Report 2008」より作成



資料：マレーシアは関連データベース、米国は商務省「Statistical Abstract of the United States」、その他の国はILO「LABORSTA」より作成

政治・経済
ジェンダー・エンパワーメント指数「58位」

国連開発計画報告書（2008年）によると、長寿・教育・所得の充足度を示す「人間開発指数」は、日本は179か国中8位ですが、政治や経済活動への女性の参画度を示す「ジェンダー・エンパワーメント指数」は、108国中58位です。

日本の各分野における女性の参画は、10年前に比べると進んでいるものの、政策・方針決定の場への参画は国際的には低い水準にあることがわかります。ちなみに、2009年（5月）における女性の衆議院議員の割合は9.2%、参議院議員は18.2%となっています。

就労
男女の賃金格差「66.8」

男女の賃金格差は縮小傾向にありますが、国際的にはまだまだ男女の格差がみられます。フィリピンや欧米諸国では、女性の賃金は男性の8割〜9割以上に達しているのに対し、日本は66.8（2003年、2008年は67.8）で、韓国、マレーシアと並んで格差が大きい国の一つとなっています。